

みんなdeスポーツ! わが町の取り組み

②6

滋賀県

本県では、滋賀県高等学校等教育研究会特別支援教育研究部会（高特研）の体育教育部会主催のスポーツ交流大会が年2回開催されている。発祥は平成5年、知的障害の特別支援学校高等部生徒が2校間で始めたホッケーの交流試合。現在は、種目を増やし、肢体不自由生徒も参加する大きな大会になっている。

特に、冬のスポーツ交流大会には、県下の知肢併置の特別支援学校8校から600人以上が参加し、2日間にわたって室内ホッケーと卓球バレーを行っている。

室内ホッケーは、対戦人数や内容を変えることで5種類に分かれる。スティックの形状を工夫したり、ポッチャで使用され

スピード感のあるゲーム展開が魅力の室内ホッケー



知肢併置校の生徒集い2日間の熱戦

るランプと呼ばれるスロープを使用したりしてシュートする「P Sフレンドリー」や、キーパー1人を含む5人で行う「5対5」などがある。「5対5」は、競技性がかなり高く、はじかれるパックのスピード感や体と体がぶつかり合う激しさは、観客を魅了する。

卓球バレーは、1チーム6人が試合に出場する。ネット側2人をブロッカー、他の4人をサーバーとし、3回打つまでに相手コートにリターンする。ラケットは、生徒の実態に合わせて工夫することができる。

今では、大会が各校の学校行事として位置付けられ、授業の年間計画に入っている。仲間への意識の高まりや卒業後の競技の継続につながるなどの成果がある反面、規模が大きくなるにつれ運営側の連絡調整が難しくなるなどの課題もある。高特研体育教育部会では、体育・スポーツ活動を通して生徒がもっと輝ける実践を目指して試行錯誤を続けている。

（重森恵津子・滋賀県立野洲養護学校校長）